日蓮大聖人御書全集

異体同心事

いたいどうしんじ

新版
2054
～
2055

異体同心事

白小袖一つ・あつわたの小袖、はわき房のびんぎに鵝目一貫、ならびにうけたまわる。

はわき房・さど房等のこと、あつわらの者どもの御心ざし、異体同心なれば万事を成じ、同体異心なれば諸事叶うことなしと申すことは、外典三千余巻に定まって候。殷の紂王は、七十万騎なれども、同体異心なればいくさにまけぬ。周の武王は、八百人なれども、異体同心なればかちぬ。一人の心なれども、二つの心あれば、その心たがい

厚綿　伯耆　佐渡　熱原　伯耆　便宜　承

て成ずることなし。百人千人なれども、一つ心なれば、必ず事を成ず。日本国の人々は、多人なれども、体同異心なれば、諸事成ぜんことかたし。日蓮が一類は、異体同心なれば、人々すくなく候えども、大事を成じて一定法華経ひろまりなんと覚え候。悪は多けれども、一善にかつことなし。譬えば、多くの火あつまれども、一水にはきえぬ。この一門も、またかくのごとし。

その上、貴辺は、多年としつもりて奉公法華経にあつくおわする上、今度はいかにもすぐれて御心ざし見えさせ給

由
うよし、人々も申し候、またかれらも申し候。一々に
承って、日天にも大神にも申し上げて候ぞ。
御文はいそぎ御返事申すべく候いつれども、たしかなる
便宜びんぎ候わで、いままで申し候わず。弁阿闍梨べんあざりがびん
恩々書敢ぎ、あまりそうそうにてかきあえず候いき。さては、各々
年としのころいかんがとおぼしつるもうこのこと、すでに
思蒙古
近ちかづきて候か。我が国のほろびんことはあさましけれ
亡浅
虚ども、これだにもそら事になるならば、日本国の人々いよ
彼いよ法華経を謗じて、万人無間地獄に堕つべし。かれだに

もつよるならば、国はほろぶとも謗法はうすくなりなん。譬えば、灸治をしてやまいをいやし、針治にて人をなおすがごとし。当時はなげくとも、後は悦びなり。

日蓮は法華経の御使い、日本国の人々は大族王の一閻浮提の仏法を失いしがごとし。蒙古国は雪山の下王のごとし。天の御使いとして、法華経の行者をあだむ人々を罰せらるるか。また現身に改悔をおこしてあるならば、阿闍世王の仏に帰して白癩をやめ、四十年の寿をのべ、無根の信と申す位にのぼりて、現身に無生忍をえたりしが

ごとし。恐々謹言。（きょうきょうきんげん）

八月六日（はちがつむいか）

日蓮（にちれん）　花押（かおう）